

書評

Ida Bromley 著 荻原新八郎 訳

四肢麻痺と対麻痺 第2版

Tetraplegia and Paraplegia, 5th—A Guide for Physiotherapists

高橋 正明 (昭和大学医療短期大学理学療法学科教授)

アイダ・ブロムリ著の「四肢麻痺と対麻痺」第5版が翻訳され、医学書院から出版された。訳者は初版(原著第3版)と同じく荻原新八郎先生である。内容は脊髄損傷に関係する生理学、急性期の理学療法からリハビリテーションまで網羅され、初版と基本的な流れは同じであるが、新たに、上肢の機能的電気刺激、姿勢と座席適合、C1、2レベルの超上位損傷者の治療、および脊髄損傷者の老化による諸問題が取り上げられた。また章立てや項目立てにより吟味し工夫した様子がうかがえる。例えば「自己介護」の項目が「個人的自立」へ、「マット上動作」が「基本的実用動作」へと変更されているように患者主体の視点が明確に打ち出されているのである。そして何よりも嬉しいのは、第3版に比べ一つ一つの説明がとても丁寧になされていることである。

ずっと以前であるが英国人の書くものは内容が実にプラクティカルであるという印象を持った。プラクティカルといえはすぐに米国人を思い出すが、彼らのように常に理屈がついて回ると違い、英国人は、実用的で役に立つ知識をけれんみなく読者に提供してくれる。そのためか、なるほどと思うことよ

りもハッとさせられることのほうが実に多い。本書の初版を読んだときも同様に感じた。しかも著者が原著第1版の序で述べているように、理学療法士および学生のために臨床場面での手引き書を作るという明確な意図を持って書かれた実用書である。教わることが多かった。

しかしながら初版はけれんみがな過ぎた。表紙は色が地味でタイトルの文字が小さい。中は段組を組んでおらず白い部分がやたらと目に付く。ほとんどの説明図が手書きの絵である。そしてさらには説明が淡泊で、とにかく今様に一言で表現すれば体裁がダサイのである。それが第2版では見事に変身した。まず、表紙が別物と思えるほどのアピール力を持った。初版と第2版を並べて学生に取らせると間違いなく第2版を選ぶ。中は2段組となり、専門書らしく読みやすい。写真による物品の提示が増えた。手書きによる説明図は以前と同じであるが、体裁が良くなると主張したいところが容易に表現できる手書きの良さが逆に引き立つ。読んでいて、とにかくハッとさせられることの多い1冊である。

(B5 頁246 4,800円+税 1999 医学書院刊)

お知らせ

第12回日本ハンドセラピー学会学術集会

会 期：平成12年5月11日(木曜日)

9:00~16:00

第43回日本手の外科学会第1日目

会 場：国立京都国際会館

(日本手の外科学会E会場)

テーマ：手指屈筋腱損傷

内 容：特別講演「手指屈筋腱損傷の治療」

吉津孝衛(新潟手の外科研究所)

主題演題6題「手指屈筋腱損傷のセラピー」

一般演題7題

参加費：セラピスト5,000円(当日受付のみ)

第43回日本手の外科学会(5月11日,12日

に開催)にも共通で参加できます。

その他：学術集会終了後に懇親会を予定しております。本学術集会発表・参加につきましては(社)日本作業療法士協会、(社)日本理学療法士協会の生涯教育単位認定申請中です。

事務局：

〒216-0015 神奈川県川崎市宮前区管生2-16-1

聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部

日本ハンドセラピー学会事務局 寺本みかよ

Tel 044-977-8111 <内 6150>

会 長：中山幸保(吉村整形外科医院)